

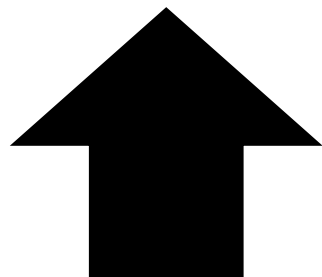
地方創生推進交付金事業評価資料

日常の「健康」を拡大し、町がにぎわうきっかけを生み出すプロジェクト
(女川町健康プロジェクト) 説明資料

女川町健康プロジェクト

＜健康プロジェクトで目指す姿＞

地域に生きる一人一人が主人公として活動し、
地域全体が活気に溢れ、進化し続けられる
社会の実現を目指す



＜健康プロジェクトの役割＞

「健康」を土台に、活動的で幸せな住民を増やす

⇒ 「予防医療」のアクションを推進

⇒ 「気づき・学び・実践」の場を生み出す

課 題

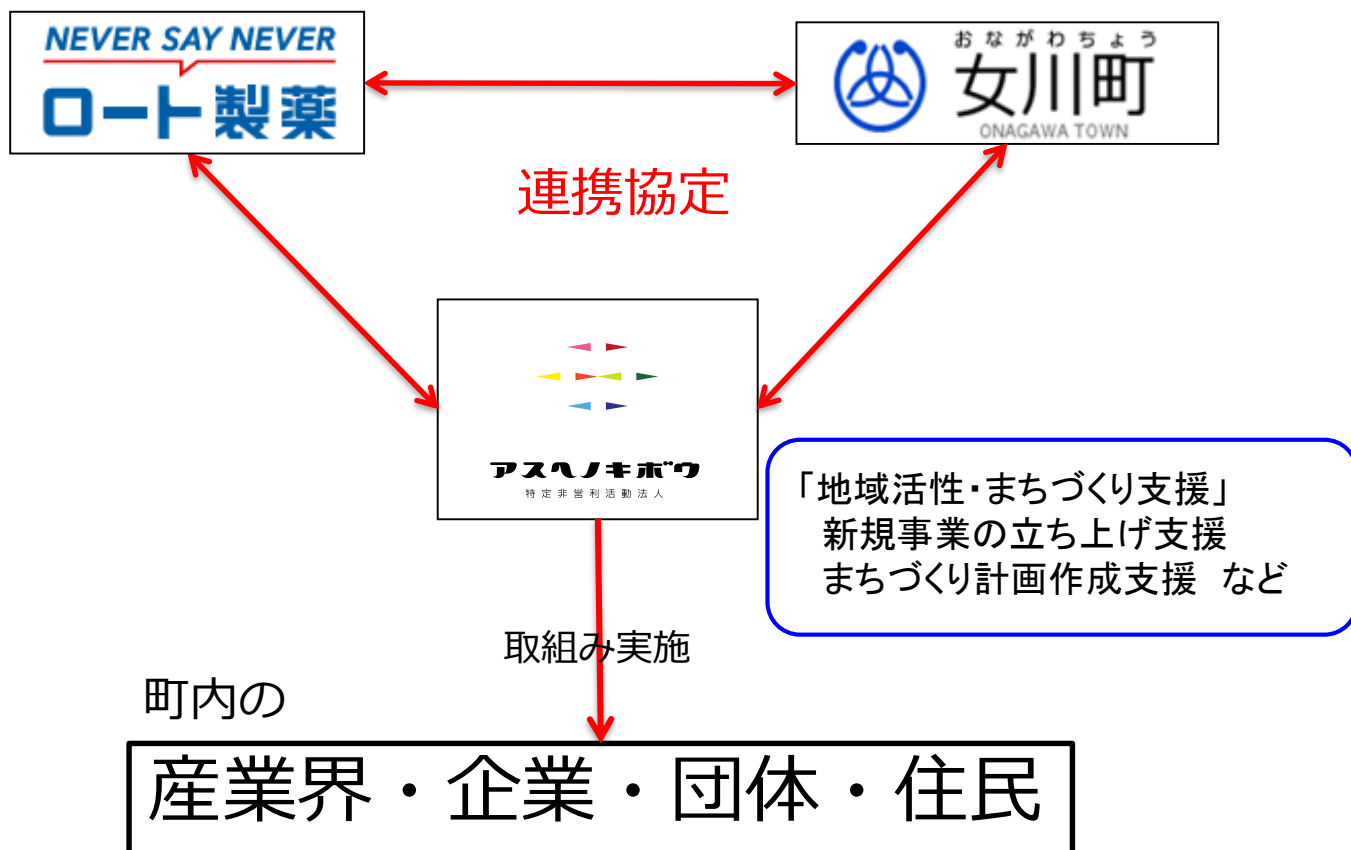
働き世代は、復興のために
仕事に追われている
健康のことよりも仕事優先
自分のからだを気づかって欲しい

病気の予防が重要！
特に働き世代へのアプローチ
※特に働き世代の19～59歳

予防医療という観点から地域を創る

予防医療ができるチームを作りました

『予防医療の専門性』 『町における経験と状況把握』 『公民の枠を超えた連携』



女川町健康プロジェクト発足（2016年夏）

毎日新聞

女川町

住民みんなで健康に 今秋から公民連携プロジェクト
／宮城

毎日新聞 2016年6月29日 地方版



協定書を取り交わした（左から）須田善明・女川町長、ロート製薬の吉野俊昭社長、アスヘノキボウの小松洋介代表＝女川町女川町のフューチャーセンターで

住民の健康を向上させようと、女川町は今秋から、大手製薬会社やNPOと連携したプロジェクトを始める。地元の海産物を使った料理教室や豊かな自然を生かしたイベントなどを企画し、町民の体質改善を図りながら地域経済の活性化も目指す。

同町によると、県内のメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）該当者の割合は全国ワースト2位。同町は県内の他の自治体に比べて割合が高く、特に50代の男性に目立つという。今も仮設住宅で暮らす被災者が多く、子供や高齢者の運動不足を心配する声もある。東日本大震災からの復興を健康づくりを通じて後押ししようと、「公民」が連携してプロジェクトを進めることを決めた。

参加するのは、同町のNPO法人「アスヘノキボウ」と復興支援を続けるロート製薬（大阪市）。28日に同町であった調印式で、同法人の小松洋介代表は「料理教室などを通じ地元食材を食べてもらい、地域の経済も動かしたい」、ロート製薬の吉野俊昭社長は「子供がバス通学で歩く機会がないと聞いた。若い人も年寄りも一緒に健康の維持を考えられたら」と話した。「メタボ」を自認する須田善明町長は「私がやせれば外から注目される。俺みたいな人を動かすプロジェクトにしたい」と力を込めた。【百武信幸】

地域一体 女川 健康な町に

イベントめじろ押し 町・NPO・製薬会社が協定

活動や従業員の健康に配慮する「健康経営」の勉強会などを想定。関係者は「中長期的にさまざまな世代や分野と連携し『健康な町女川』を実現したい」と意気込む。

小松代表は「公民連携の復興まちづくりが進む女川でも、地域が一体となって健康づくりを推進し、経済を動かしたい」と期す。



協定に調印した（左から）須田町長、吉野社長、小松代表

東日本大震災で被災した女川町で、地域ぐるみの健康プロジェクトが始動した。町のNPO法人アスヘノキボウと町、ロート製薬が28日に協定を締結。海の幸を使ったメニュー開発や料理教室、健康を養える偏しなどを今秋以降、順次実施する。

3者は食に関する取り組みのほか、地域での峰登山を進める。住民の健康状態が改善され、地域経済が活性化したいという。

町民の健康状態が改善され、地域経済が活性化したいという。

○「健康なまち宣言」の決議

私たちの願いは、恵まれた自然と風土の中で、心身ともに健康で、一人ひとりがいきいきと輝いて幸福に暮らすことです。私たちは「心身ともに健康な生活を支え合うおながわ」を基本とし、誰もが生涯、健康で明るく生活できるまちづくりを目指して、お互いに助け、支え合いながら「健康なまち」を宣言します。

2016年6月28日、

『健康な町、女川町』の実現に向けた連携協定締結。

9月には議会からも『健康なまち宣言』を決議いただく。

取り組み内容

平成28年度から取り組み実施

- ①意識づけ事業
- ②環境整備事業
- ③健康経営支援事業

平成29年度から令和元年の3カ年は地方創生推進交付金を活用
＜地方創生として目指す姿＞
東日本大震災後に最大の人口減少率であったが、
「人口減少下においてもにぎわいと活力を維持し続けられる町」
を目指す

意識づけ事業

スマート10事業

平成28～29年度 延べ277人

○気づきの場

自らのカラダチェックを行い、自分自身の身体の状態を知り、日常生活や習慣変容を考える気づきの場。

⇒健康診断未受診者の多い、忙しい働き盛り世代に対して、
こちらから身近な場所に訪問し、10分程度で行える簡易版の
身体チェックを実施。

○アンケート

毎年健診を受けているか(健診を受けていない理由)



身体チェック (身長計、X-me)

血液検査 (HbA1c、総Col、HDL・HDL、中性脂肪)

健康相談



意識づけ事業 100日対抗戦 平成28～30年度延べ388人

○気づき&学び&実践の場



期間中に自らが健康になるための取り組み
を行いながら「健康」について学ぶ
平成28年～平成30年度 延べ388人



個人ではなく、チームで取り組める！

日々の取り組みで、健康実感と数値の改善！

組織内の活性化を実感！



環境整備事業

平成30年度

食生活情報提供 77カ所273個、食環境実態調査17店舗

○気づき&学び

町内の様々な場所に、健康につながるヒントを散りばめることによって、日常の中で健康に関して考えるきっかけを生み出し、小さなアクションが始まっていくためのスイッチにする。

⇒「今日から1kg減らすための10個のヒント」と

題し、シリーズもので健康情報を発信。

⇒様々な切り口から食生活を考えるきっかけに。



すきま時間に気軽に読めるツールに

見やすく、わかりやすく、ポイントを伝える

テーマは身近に健康を変えるきっかけに



健康経営支援事業

(1) 健康経営プログラム

○気づき&学び&実践の場

- ・ 女川町内を職場から元気にしていくために、スマート10や健康100日対抗戦など会社ぐるみの取り組みを実践
- ・ 健康経営セミナーの実施

(2) 「職場健康づくり宣言」事業所を増やす

○事業者訪問と情報提供と現状ヒアリング

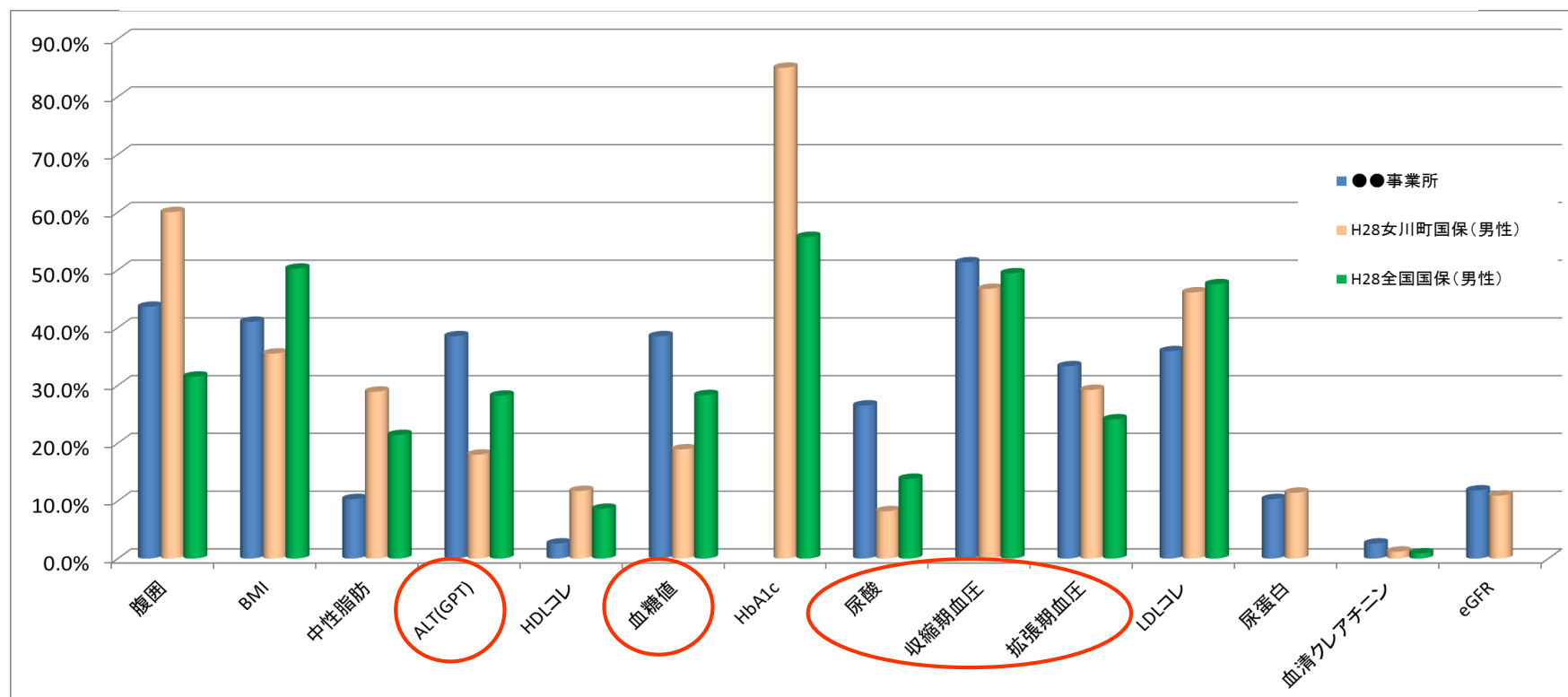


健康経営支援事業

(3) 事業所での健康セミナー

○気づき&学び&実践の場

- ・ 事業所からの従業員の健診データをもとに健康講話の実施
(事業所としての健康課題の明確化)
- ・ 事業者の従業員のためになる「健康セミナー」の実施



健康経営支援事業

「健康経営優良法人」2社、「職場健康づくり宣言」7社

○「健康」を軸に、取り組みの輪が広がっていく

・2018年度は広報活動にも力を入れながら、「健康」を切り口にしたまちづくりの輪を拡大させていくための動きも推進。

⇒2019年2月21日には、女川町内から経済産業省主催の「健康経営優良法人 中小企業部門」の認定企業が2社誕生。

「健康経営」広げよう



女川「表彰制度」を新設
働き世代の意識向上図る

女川町は、健康経営の推進を図るため、働き世代の意識向上を図る「健康経営表彰制度」を新設した。この制度は、健康経営の取り組みが顕著な企業や個人を対象とし、表彰を行う。これは、健康経営の取り組みが顕著な企業や個人を対象とし、表彰を行う。これは、健康経営の取り組みが顕著な企業や個人を対象とし、表彰を行う。



2019
健康経営優良法人
Health and productivity



田中建設株式会社
TANAKA CONSTRUCTION CO., LTD.

Watanabe Shoten
株式会社 渡邊商店

取り組みの成果

スマートみやぎ健民大賞受賞

○「健康」を軸に、地域に価値が生まれる

- ・2018年2月21日 女川町は「スマート宮城健民会議」で健康推進の評価を得て大賞を受賞！

2018年02月22日, 面名:M106X0, 記事ID:K201802220A0M106X00008

(C)河北新報社



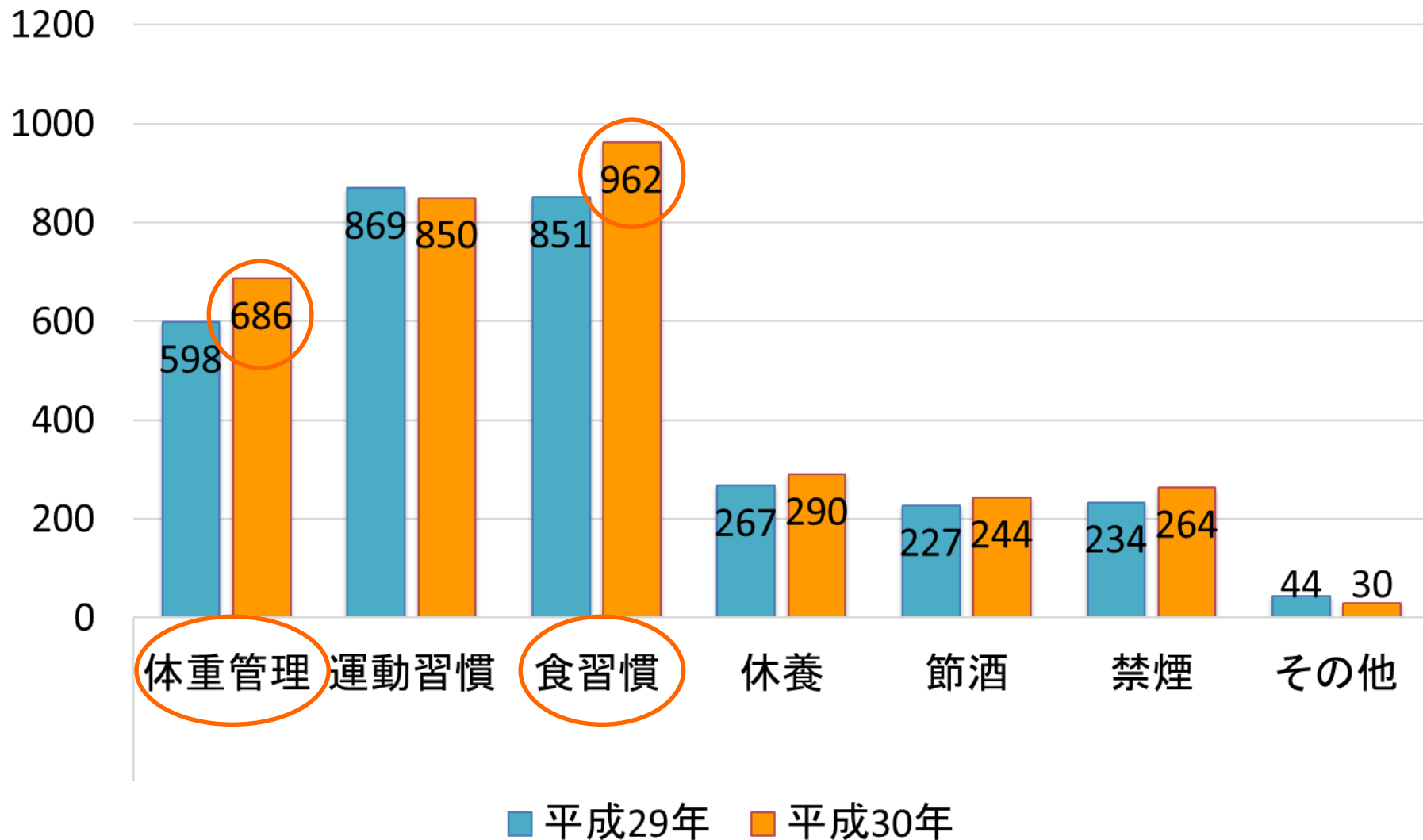
**肥満予防推進
女川町に大賞**
スマートみやぎ健民会議
全国で高水準にあるメタボリック症候群の県民割合の改善を目指す官民組織「スマートみやぎ健民会議」（会長・村井嘉浩知事）は21日、仙台市太白区文化センターで、健康づくりを積極的に進める県内4団体を表彰した。
大賞には女川町が選ばれ、企業や地域団体がチーム対抗戦で肥満予防に取り組むアイデアが評価された。須田善明町長は「町を挙げた健康づくりは人口減が進む地域の活性化にもつながる」と意義を強調した。
企業部門は産業医による禁煙サポートなどを推奨するYKK AP東北製造所（大崎市）と、がん検診の休暇制度を設けるなどした

ミヤックス（泉区）が受賞。地域団体部門は健康体操教室を開く「1・5会」（東松島市）が選ばれた。
県内の優良事例を紹介するセミナーもあり、岡本咲子県健康推進課長は「民間企業などと連携して県内各地に健康づくりの拠点を整備し、県民の意識醸成を図っていく」と話した。
健康づくりの取り組みが評価された4団体の代表者ら



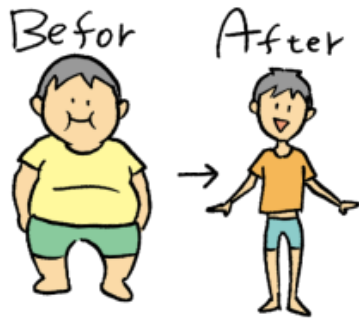
健康に関する取り組み

平成29年度3,090人 → 平成30年度3,326人 (人)



100日対抗戦の取り組み

健康への関心、体重に変化



平成30年度の結果では・・・

健康への関心が高まった 58%

体重減少 69%

周囲への波及効果が発生

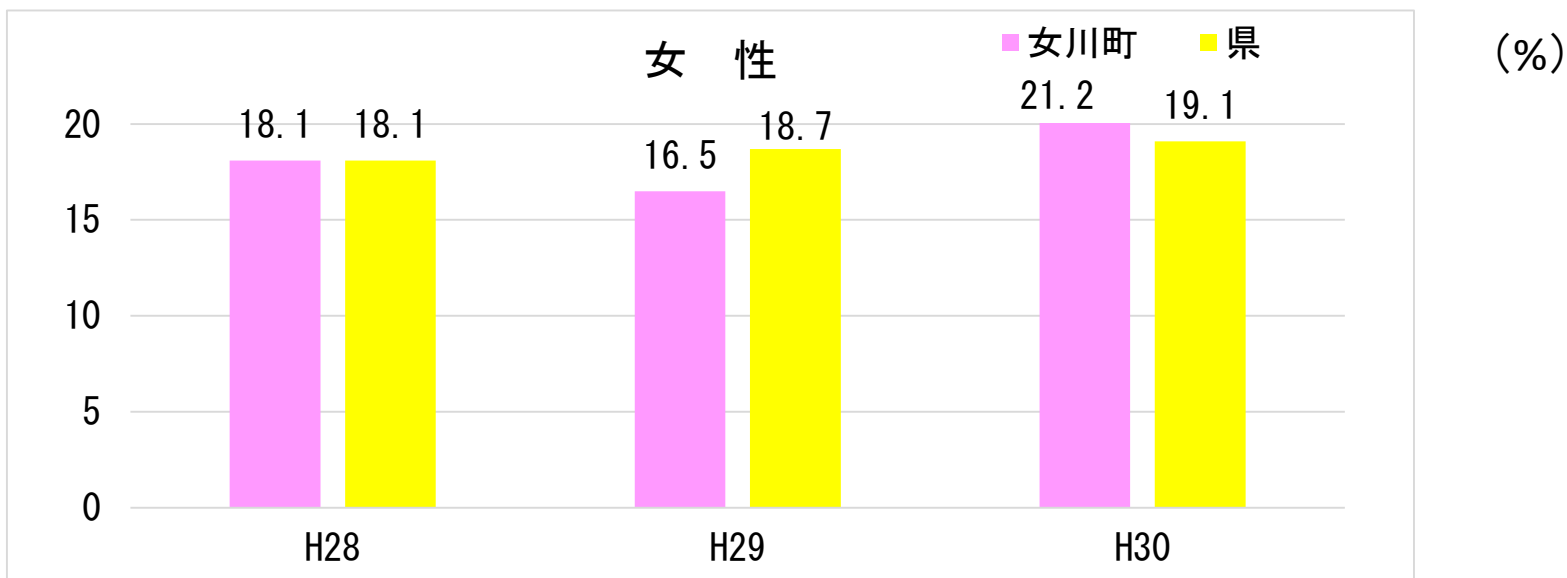
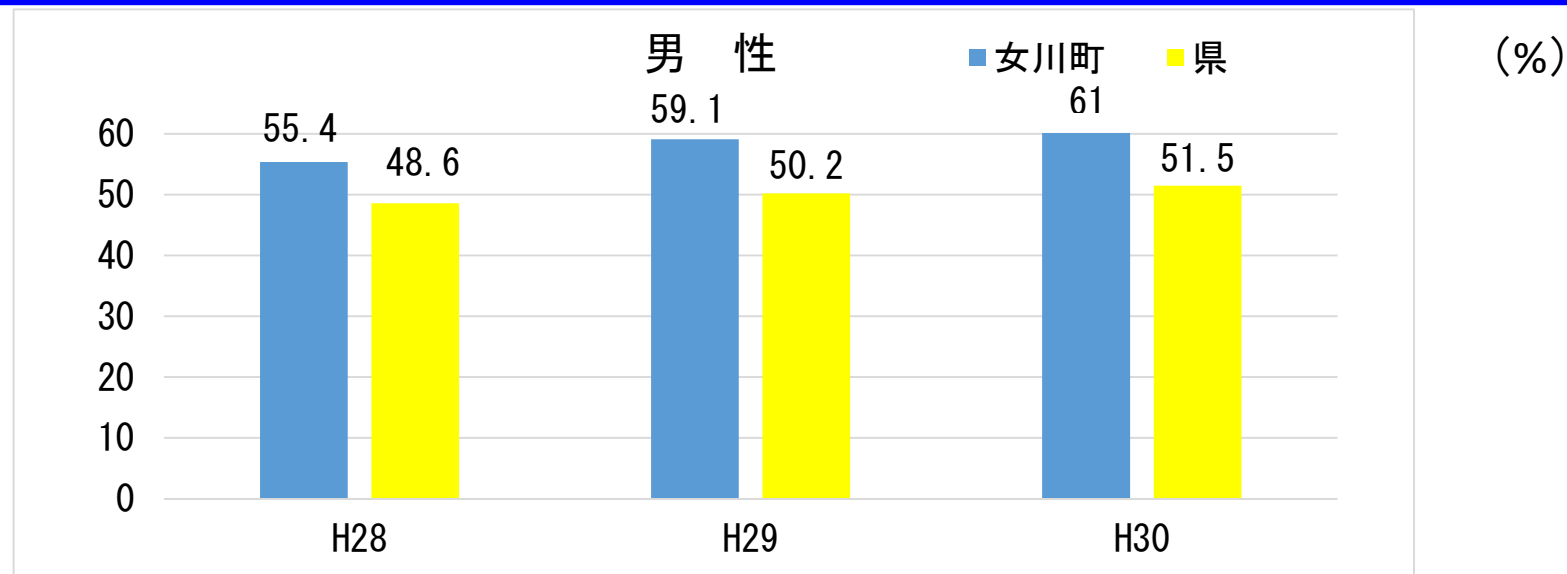
職場でのラジオ体操が定例化
参加者以外も運動の輪の中に



健康への取り組みの会話が増加

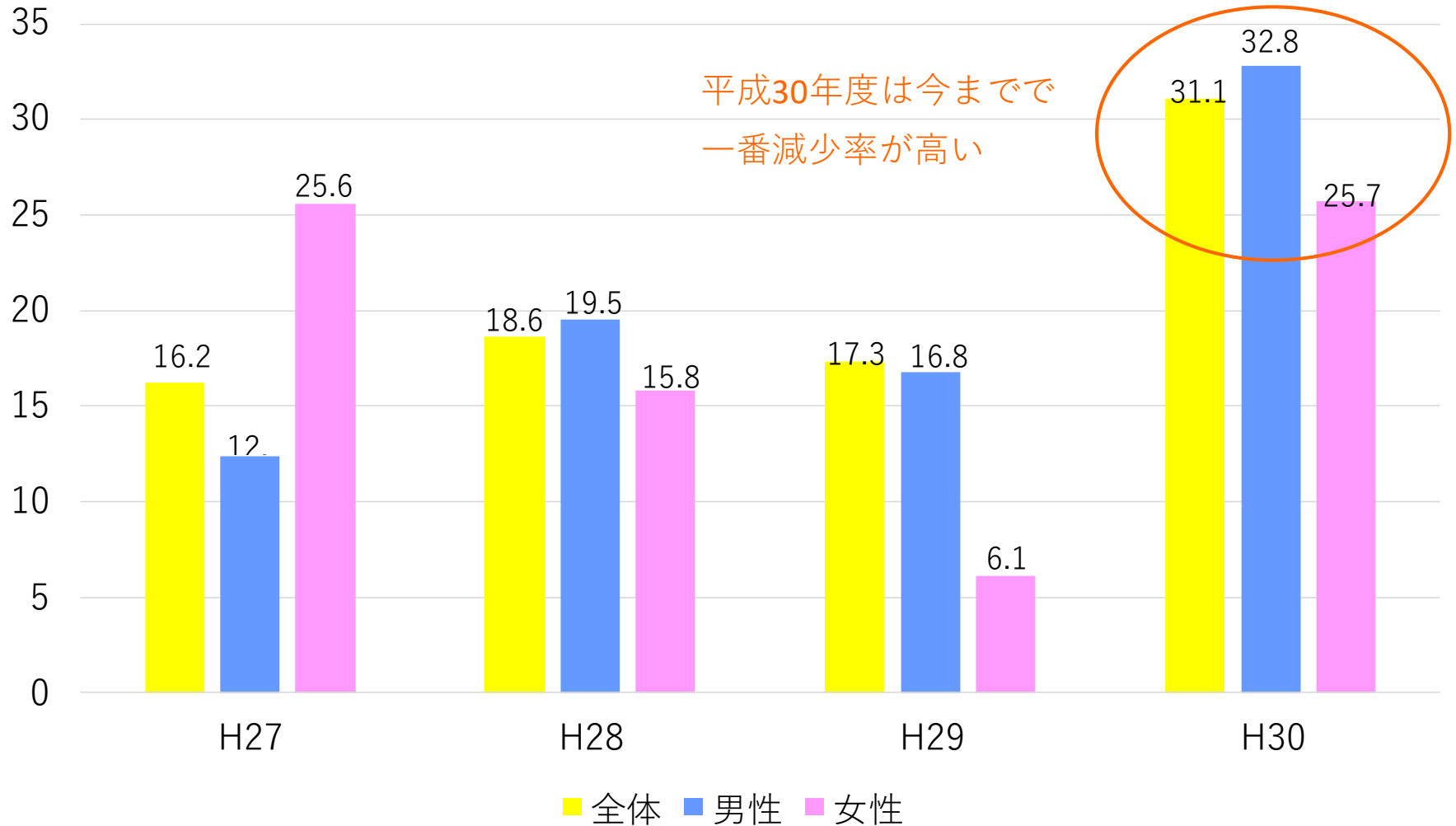
毎日の取り組みの様子や
自分自身の変化が話題に

メタボリックシンドローム該当者・予備群

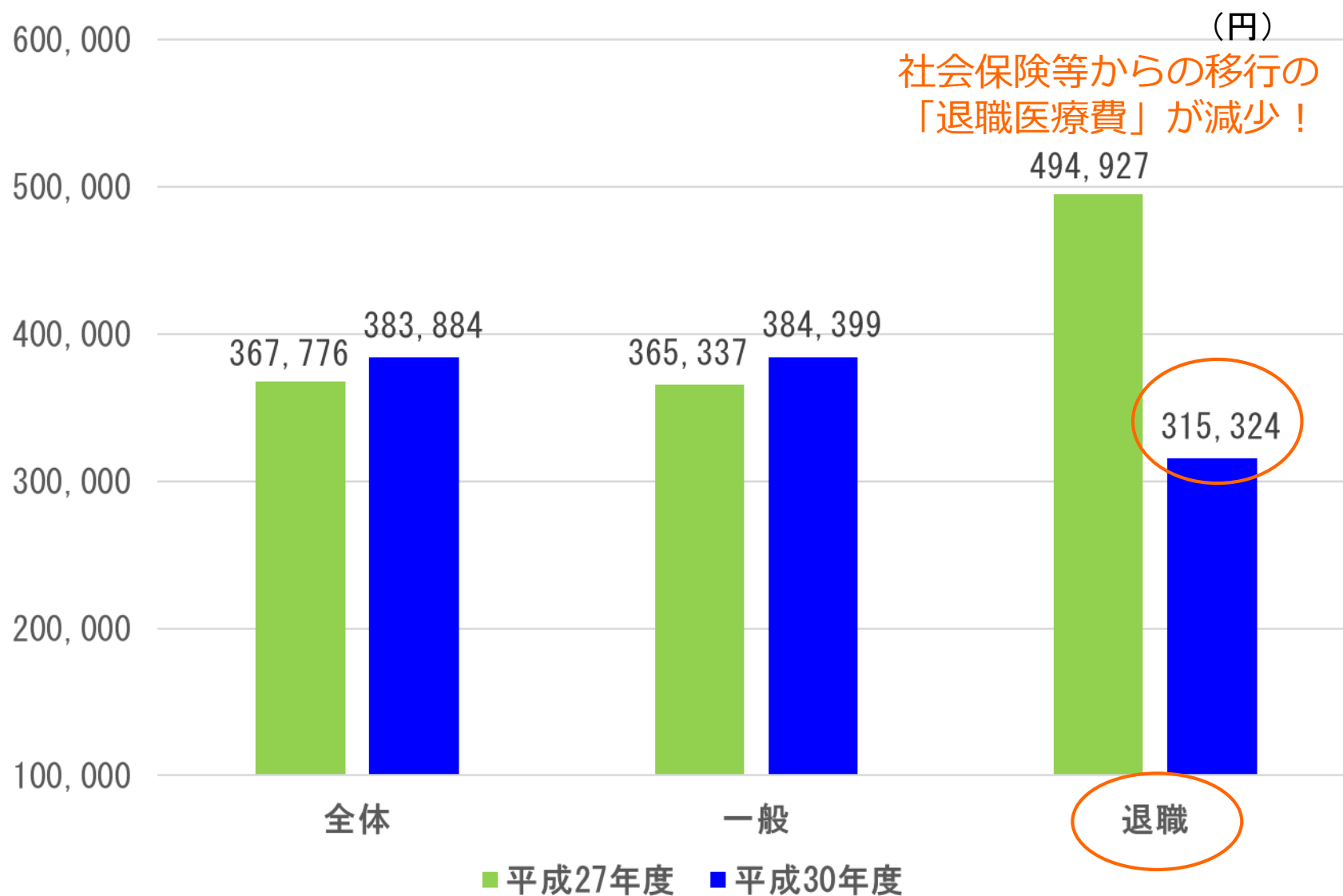


メタボリックシンドローム該当者の減少率

※メタボ該当者・予備群だった方が、次年度該当ではなくなった方の割合



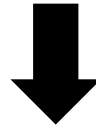
一人当たり医療費



今後の方向性

平成28年度～令和元年度

健康づくりの土台づくり
(健康の意識向上のための環境づくり)



これから

『健康づくりの実践』

町内の事業者と“公民協働”で取り組む

- ・ 今までの取り組みで理解を得られた事業所
- ・ 事業実施に関心がある事業所

取り組み内容

①健康づくりのための環境整備

(日常生活の中で、健康チェックできる、健康情報が得られる)

②食環境整備

(健康な食事メニューが食べられる、食品が買える)

③健康経営の推進

(働き世代はやはり仕事優先であるため、健康な職場づくりを目指す)

女川町健康プロジェクトKPI目標値、実績値

※令和元年度 1 月末現在の実績値

		事業開始前 (現時点)	平成29年度 (1 年目)	平成30年度 (2 年目)	令和元年度 (平成31年度) (3 年目)	KPI 増加分 の累計
女川町国民健康保険 生活習慣病に係る一 人当たり医療費(円) ※	目標値		26,000	25,000	24,000	-2,815
	実績値	26,815	26,607	28,837	27,987	1,172
まちなか交流館利用 人数(人)	目標値		160,000	170,000	180,000	30,000
	実績値	150,000	132,066	156,965	89,635	-60,365
健康プロジェクト参 加人数(人)	目標値		400	500	600	399
	実績値	201	665	531	221	20
健康づくりや予防医 学に関連した事業創 出件数	目標値		0	1	1	1
	実績値	0	0	0	0	0

※生活習慣病に係る一人当たり医療費とは、糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、脂肪肝、動脈硬化症、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、新生物、筋骨格系及び結合組織の疾患、精神及び行動の障害、腎不全の病名で医療費がかかった金額を被保険者数で割った金額